

令和2年度 第1回 学校運営協議会 議事録（要旨）

- 1 日 時 令和元年7月2日（木） 16:00～17:00
- 2 場 所 クリーン室
- 3 出席者 喜田会長、乾委員、谷口委員、豊田委員、村田委員
檜崎校長、芥川教頭、石原事務長、黒田首席、新田首席
その他教員 4名

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 会長挨拶
- (3) 令和2年度学校経営計画及び学校評価について
- (4) 令和3年度使用教科用図書を選定について
- (5) 閉会

5 協議・意見交換

<令和2年度「学校経営計画および学校評価」について>

校長より主旨説明：コロナウイルス感染拡大の影響で臨時休業が長期化し、一部実施が困難となった項目もある。新学習指導要領では主体的、対話的で深い学びを実現することを目指しているが、ソーシャルディスタンスを守ると対話すること自体が難しくなっている。3期生の進路状況や1、2期生の職場定着の状況などを踏まえて計画を立案した。

[質問]

(PDC Aサイクルについて)

委員：中期的目標のPDC Aサイクルとは？

校長：計画、実行、評価、改善という一連の流れのこと。常に自分たちの教育実践が適正かつ効果的に行われているか振り返ることが必要であると考えている。

(就労率について)

委員：就労率100%とあるが、企業就職のみを目指すのか、A型事業所なども含むのか？

校長：企業就職を第一に考えているが、本人、保護者のニーズに沿った進路決定が一番肝心である。3期生では、8割の就職率だったが大学進学や専門的な技能を身につけるために専門学校への進学を目指すケースもある。そのようにニーズに応じた進路補償をして、希望する進路に進むことも含めた100%であると考えている。

(企業開拓の活用)

委員：企業開拓750件を活用 とあるが、今後企業開拓をしないという意味か？

校長：開拓件数が750件なのは、大阪市内にあるという立地の良さや教員の努力の賜物であるが、訪問後に実習の了承を得たが、生徒の実習先として設定できていない企業様も一定数ある。今後は生徒の希望する職種、業種に合わせた企業開拓をすすめる方向性である。

(適正な進路選択について)

委員：在校生のカウンセリングを行っている、「支援学校ではなく高等学校に進学したかったが保護者や担任からの勧めで選択肢が与えられなかった」、「療育手帳を取得することの意味を十分理解しないまま取得した」ことにより、自分の描いていた高校生活と現実とのギャップに悩んでいるケースがある。生徒たちの困り感を取り去るには、主体的に進路選択できることが必要だと考えるが、中学校等へどのようにアプローチをしているのか。

校長：例年7月に府立高校が一斉に進学フェアを開催し、本校もブースを出して教育内容などを紹介している。8月には本校でオープンスクールを実施している。今年度はコロナウイルスの影響で対象や、内容を一部簡略化して授業見学や生徒による授業紹介を行っている。11月には3年生を対象に学校説明会を実施している。入学者選抜について、より詳細な内容を紹介する場としている。中学校等の教員向けに「高等支援学校研修会」を実施し、本校の紹介だけでなく知的障がいのある生徒の進路について高等学校、支援学校、専門学校など幅広く紹介し、望まない進学を減らすよう取り組んでいる。

委員：ZOOMによる、企業紹介動画を作成中であるが、会社説明を見てその企業のことを十分知れば、定着につながるのではないかと。

委員：就労移行支援事業所では、ZOOMによる出勤を認めている所もあり、大学でもオンライン授業が進んでいるが、高等学校、支援学校では難しいのではないかと。

校長：大阪府立学校では、7月をめどにオンライン授業を実施に向けた準備をすすめている。

事務局：現在、試験的な授業動画を作成しyoutubeにアップしている。情報の授業で動画の視聴方法を学習している。今後はGoogle社のG-Suiteを活用して、双方向の授業を実現できるように取り組んでいる。

<令和3年度教科用図書選定について>

校長：別紙一覧のとおり、令和3年度に使用する教科用図書の選定を各教科で進め、3回目の教科書選定委員会を経て、選定する。

生徒の特性や実態に応じたものになるように、3年間使用するもの学年ごとに使用するものなどの工夫をしている。

[質問・討議事項なし]

校長：閉会の挨拶